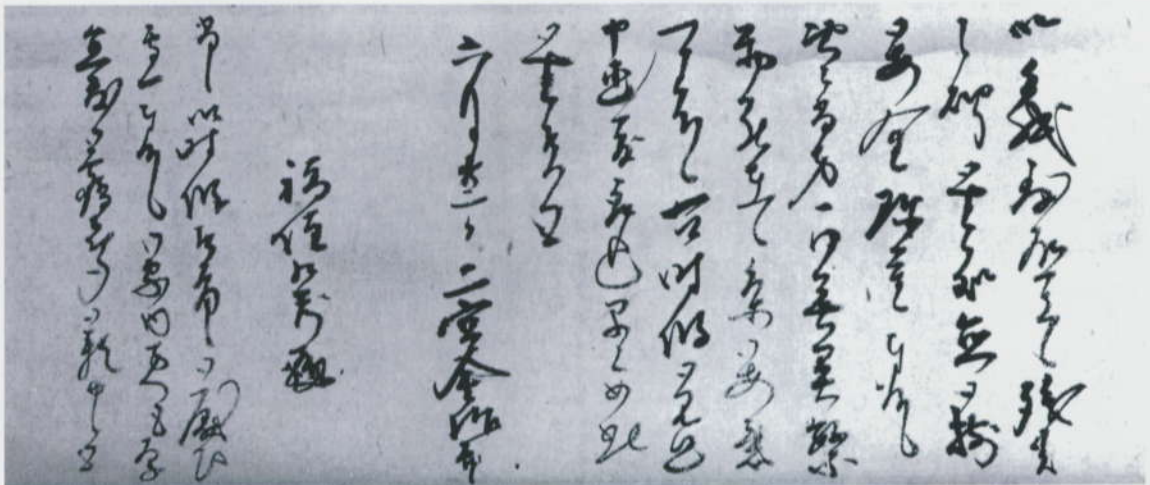


## 報徳博物館

友の会 だより  
No.71

## 第27回企画展

## 尊徳ならびにゆかりの人々の手紙

上の資料は、二宮尊徳が箱根湯本の福住九蔵(正兄)にあてた残暑見舞状です。6月22日と日付だけで何年か記されておられません、嘉永5年(1852)のものと思われます。旧暦とはいえ6月22日で残暑見舞というのも奇異な感じがしますが、本文中にはっきり「残暑あきの砌」とあります。また、尚書きに「折角お厭い専一」とか「御家内方へも厚く宜しく御鶴声」などとあり、心がこもっております。

この手紙は、子息尊行と孫尊親のものと同様にして、一幅の軸になり「二宮家三代書簡」として、神奈川県指定文化財になっておりますが、去る8月1日(月)から9月30日(金)まで開催した第27回企画展「尊徳ならびにゆかりの人々の手紙」では、この手紙をはじめ多くの関係者(次のページ参照)の手紙を展示いたしました。

何しろ、主役が昔の手紙ですから、もちろん毛筆のくずし字で候文、内容は別にして見た目は白と黒、しかも平面的で展示には工夫を要するところでしたが、お蔭様で好評裏に終了いたしました。



博物館入口の看板

## 企 画 展



期間中の入館者総数は345人と例年よりも若干少な目だったのですが、ご覧頂いたお客様の中には、一生懸命にメモを取る方や、解説プレートを読んで「今まで名前は度々耳にしていた人物の関係や立場などがよく分かって、大変参考になりました」とか、「よくこれだけの資料を揃えたもの、さすがです」

### はじめに

文化庁の世論調査で「手紙は今後も手書きで書くべきだ。47.8%」だそうです。皆さんの中にはかつて、「恋文」いや「ラブレター」を密かに書いたり貰ったりした人もおいででしょう。そこまではいなくても、旅先から手書きの絵葉書を貰って嬉しく読んだ、なんていうこともおありでしょう。

勿論、すべて手書きです。

行灯の明かり、筆持つ人の表情や想い、受け取って読む人、あるいはそれを運び届けた人などなど、手紙の向こう側に動く幾つもの影を想像しながら、どうぞ、ごゆっくりご覧下さい。

などとお褒めも頂きました。また、中には3回も足を運ばれた方もありました。

ご記帳いただいた人数を県別に見ると、県内や東京は別格として、埼玉11、千葉2、栃木1、群



馬5、福島1、新潟1、静岡9、愛知4、滋賀1、奈良1、大阪1、兵庫3、岡山2、香川1と遠隔地の人も多く外国の人も3人見えました。

また、大日本報徳社樺村社長やテレビ等でお馴染みの金ピカ先生のご著名もありました。



### ◇展示した手紙の差出人リスト

#### 二宮家の人々

○二宮尊徳 ○二宮尊行 二宮文子 ○二宮餃子 ○二宮尊親 ○二宮徳 二宮三郎左衛門 二宮兵三郎

#### 高弟等

○富田高慶 ○齋藤高行 ○福住正兄 ○岡田良一郎  
福山滝助 ○岡田良平 ○一木喜徳郎

#### 門人等

大沢小才太 大沢勇助 ○大友亀太郎 大南治右衛門 岡部善右衛門 加藤宗兵衛 釘持広吉 河野幸内 柴田順作 杉本田造 宮原瀛洲 ○片平信明 ○草山貞胤

#### 小田原藩

服部十郎兵衛 吉野凶書 鶴沢作右衛門 豊田正作 男沢茂太夫 栗原祐造 樋口起之助 牟礼三郎太夫 矢野筈右衛門 山崎金五右衛門 横沢勇蔵 脇山喜藤太

#### 諸藩

宇津釦之助 (桜町領 旗本)  
中村勤農衛 (谷田部 茂木藩)  
菅谷八郎右衛門 円応 (鳥山藩)  
衣笠兵太夫 (下館藩)  
○相馬因幡守誠胤 ○慈隆 (相馬藩)

#### 幕府

小田又蔵 山内総左衛門 渡辺棠之助

以上 総計48名

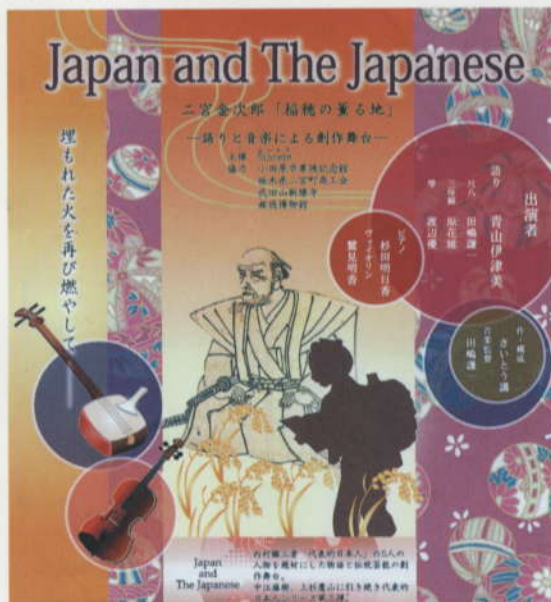
○印は肖像も掲出

## 取材ノートから

### ◇二宮金次郎「稲穂の薫る地」

#### 一語りと音楽による創作舞台一

これは、去る10月22日(土)、東京建物八重洲ホールにおいて上演された、中間法人シンシア主催の創作舞台の題名です。ピアノ・バイオリン・琴・三味線・尺八と和洋楽器の演奏を織り込んで、青山伊津美という俳優(岸田今日子、橋爪功らが所属する劇団円の中堅俳優)が、和服姿の内村鑑三に扮して、尊徳の人となり・生き方などを逸話を混えて語るといふもので、報徳博物館も取材協力したのですが、下はそのパンフレットの一部です。



観客は約60人と少なかったのですが、半分以上は2・30代の若い人達で、皆感銘を受けた様です。

当日渡されたプログラムの中で「わたしたちは、日本人のライフスタイルがどんなに変わっても、変わらず心の根底に流れる日本の心を大切にし、また、それを土台にして内外に活躍する日本人が多く誕生することを願って活躍しています。

今回は、明治時代に出版された内村鑑三の『代表的日本人』を題材として、その中から中江藤樹・上杉鷹山に続いて尊徳を取りあげました。

金次郎は、人の個性・長所を大切にする人だった。彼の周囲への接し方、説得の仕方、納得のさせ方などは、現代も見習うべき日本人的手法ではないでしょうか」と述べております。

### ◇弘前城の金次郎像

弘前城(公園)北門を入れて左折すると直ぐ左手の日本庭園の岩の築山の上にあの金次郎像が建っております。

近くの茶店の老婆の話では「昭和20年ごろ東京から戻った時にはありません」とのこと。また60歳くらいの男性は「私が子供のころからありません」とのことでしたが、ご両人共建立の経緯は不明でした。



### ◇無事に帰還した金次郎の銅像



左の写真は雑誌から拝借したので少々不鮮明ですが、山口市立佐々並小学校の珍しい形の金次郎の銅像です。太平洋戦中の昭和16年ごろ、軍需品製造のため金属供出令が出て、鍋釜から鳥居やお寺の鐘まで供出しました。当然金次郎像も応召したので、戦前の銅像が残っているのは報徳二宮神社のものだけと想着いたら、これは、終戦後ヒョッコリ帰って来たのだそうです。

### ◇校庭の金次郎像の嚙矢

金次郎像が小学校の校庭に建てられた最初は、大正13年(1924)豊橋市立前芝尋常高等小学校で、次いで昭和3年(昭和天皇御大典の年)に負薪読書の像、というのが定説になっております。

ところが、『愛知県教育史』第4巻の「愛知県下の小学校における二宮金次郎像建立年」(昭和49年愛知県教育センター調べ)によると、昭和2年に2校、3年に2校となっています。また『愛知県教育100年史』で高橋一司氏は、豊川市立牛久保小学校に、昭和2年藤原利平作のセメント像が建てられたと記されております。

## 報徳博物館だより

### ◇その時歴史が動いた

去る9月14日(水)、NHK TV第1チャンネルの夜9時から「その時歴史が動いた～二宮金次郎四万人を救う」の放映をご覧になった方は多いでしょう。尊徳のことは「一応は知ってるつもり」の私達でも、改めてその偉大さについて再認識いたしました。

それにしても、NHKの全国放送のもつ偉力の大きいには驚きました。あの日以後の当博物館の入館者数が大変多くなりました。最近3年間の9・10月入館者数をグラフにしてみました。今年がダントツです。しかも、今までには入館者ゼロの日も1か月の間には何日もあったのに、本年はこの2か月間に1度もありません。正に「あのとき歴史が動いた」のです。



9月26日の新聞の投稿欄に「もっと尊徳について知りたくなりました。大河ドラマも作って下さい」とありましたが、思うことは皆同じですね。ぜひ実現されるといいですねその時こそ本当に「歴史は動く」でしょう。

ところであの番組の視聴率は関東・関西共に14%を超え、当日のNHK番組の中では2番目の高視聴率だったと、担当ディレクターからお礼の電話がありました。

### ◇二宮金次郎フォーラム開催される

11月6日(日)、太宰府館まほろばホールにて、主催は二宮金次郎の会、共催は国際二宮尊徳思想学会と福岡国際大学海村ゼミで開催されました。

この会の第一部で、草山昭館長は「現代に生きる二宮金次郎」というテーマで基調講演を行いました。第二部では、中国からの2人の留学生も一役買ったようです。

### ◇中国国際交流協会理事 朱 俊发氏来館

去る10月31日(月)中国の交際交流協会代表として、同協会理事の朱 俊发氏一行が、社団法人国際IC日本協会専務理事長野清志氏やMRAアジアセンター中山所長らの案内で報徳二宮神社参拝。続いて報徳会館で草山館長らと懇談の後博物館に来



館。通訳を介して齋藤館長代理の説明を聞かれましたが、尊徳の生き方・考え方に大変感銘を受けられた様子でした。

### ◇齋藤館長代理 日本博物館協会より受賞

日本博物館協会主催の第53回全国博物館大会が11月17日(木)・18日(金)の両日、東京両国の江戸東京博物館で開催されましたが、その席で、齋藤館長代理が永年の功労を顕彰されました。

この栄は東海地区で13名で、その中の1人でした。



### ◇CD「二宮尊徳の学問と功績」発売される

語り手は齋藤館長代理、税込み2310円 53分余



発行 財団法人報徳福運社

## 報徳博物館友の会

〒250-0013 小田原市南町1-5-72  
電話0465(23)1151・振替00250-6-24450